

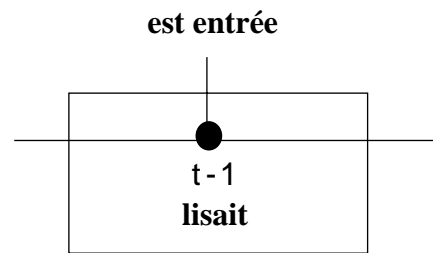
フランス語の隠れたしくみ

19. 再び複合過去と半過去

東郷雄二

複合過去 vs. 半過去の定番はこれだ！

前々号と前号でフランス語時制の全体像についてざっと見たので、宿題として残されていた複合過去と半過去のちがいに戻ることにはしよう。前回でも出した典型的な例からスタートする。

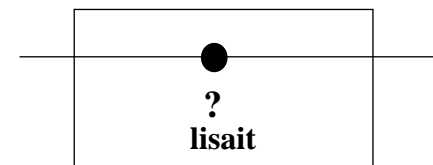


(1) Quand Marinette *est entrée* dans le salon, son père *lisait* le journal.

「マリネットが居間に入って行くと、お父さんは新聞を読んでいました」

語りのモードにおいて複合過去 *est entrée* は、時間軸上の時点 $t-1$ に出来事「マリネットが居間に入る」が起きたことを表わす。こうして指定された $t-1$ を中心とする過去スペースに足場を移す。そして、あたかも自分が $t-1$ を第二の「現在」であるかのようにして、あたりを見回すと *Son père lit le journal*. 「父親が新聞を読んでいる」という事態が眼の前にある。父親はいつ新聞を読み始めたのか、いつ新聞を読み終わるのか、どちらもはっきりしない。これが複合過去と併用された半過去の定番である。複合過去による $t-1$ の指定が過去スペースを開く条件となるという点に、半過去の「非自立性」が示されている。また、開始点も終了点も明示されないという点に半過去の「未完了性」が、過去スペースに視点が移動するという点に半過去の持つ「内的視点」という性格が表わされている。

半過去の非自立性というのはこういうことである。Il pleuvait. 「雨が降っていた」とか、Marie faisait la vaisselle. 「マリーは皿を洗っていた」とか言って、話をいったん止めるとフランス人は「ん？」という顔をし、Et alors? 「それで？」と聞いてくる。半過去だけで話を始めることはできないのである。上の図式で言うと、複合過去 *est entrée* による $t-1$ の指定をすっ飛ばして、いきなり半過去によって過去スペースを開こうとしているからである。聞き手はどの時点に過去スペースを開くのかわからないので、とまどうことになる。



それがEt alors? 「それで？」という質問になって現われるのである。

ただし、語りのモードでは次のように半過去で話を始めることがある。次はジャンヌ・ダルクのお話の冒頭。これを「開始の半過去」*imparfait d'ouverture* という。

(2) La jeune bergère *habitait* le village de Domrémy en Lorraine. Elle reçut la mission de délivrer la France des Anglais.

「羊飼いの少女はロレーヌ地方のドンレミー村に住んでいました。彼女はフランスをイギリスから解放せよという使命を受けました」

ここでは「t-1の指定 過去スペースを開く」という手順を意図的に逆転している。半過去 *habitait* で過去スペースを開くが、このスペースは宙ぶらりんなので、読み手は期待感を抱いたまま続きを待つことになる。そこへ単純過去 *reçut* が後から t-1 を指定し、過去スペースは時間の流れのなかでの位置が定まるのである。

書き手はこのような意味効果をフルに活用することがある。日本語の試訳は自分で見ても稚拙だが、目をつぶっていただきたい。

- (3) Salvador Dali *était* à Paris où il *visitait* le Musée National d'Art Moderne. Le directeur du musée l'*accompagnait* pendant la visite. Ils *admiraient* les œuvres des artistes du XX^e siècle. Dali **a regardé** avec intérêt les tableaux de ses collègues dadaïstes et surréalistes.
「サルバドール・ダリはパリにいて、国立現代美術館を訪れました。館長はダリの訪問中ずっと案内しました。ふたりは20世紀の芸術家たちの作品を鑑賞しました。ダリはダダイストやシュールレアリストの仲間たちの絵を興味深く見ました」

était, *visitait*, *accompagnait*, *admiraient* とずっと半過去で、ようやく *a regardé* で複合過去になる。ここでは開始の半過去を用いて過去スペースを開くのにずいぶん力を入れている。開かれているのはただひとつの過去スペースなので、半過去の動詞は次々と起きた出来事を表わすのではなく、すべて同時である。右の図で動詞が鏡餅のように縦に重なっているのはそういうことである。



ここで注意しなくてはならないのは、常識的に考えた場合、まず「美術館を訪れ」、次に「絵画を鑑賞する」わけだから順序があるはずで、全部が同時なのはおかしいのではないかと考えてはいけないという点である。これらの動詞はすべてひとつの過去スペースを形作っている。「半過去は語りの時間を前に進めない」と言われるのはこういうことである。

さらに大事なことがある。半過去に置かれた動詞は最初の *était* を除き、複合過去にすることもできるという点である。もしそうしたら、もはやひとつの過去スペースを作るのではなく、*il a visité* 「彼は訪問した」、*le directeur du musée l'a accompagné* 「館長はダリを案内した」、*ils ont admiré* 「ふたりは鑑賞した」という一連の出来事が次々と起きたことを表わすことになる。

ここでも大事なものは、複合過去にするか半過去にするか、書き手には選択の自由があるということだ。語りをどのように展開していくかによって、全体をひとつの過去スペースとして、まるで一幅の絵のように提示することもできれば、ばらばらに分解して別々の出来事として語ることもできる。時制の選択が話し手の「ものの見方」で決まるというのはこういうことなのだ。

定番の応用問題としての半過去の用法

次に定番からやや外れる半過去の使い方について、いくつか見ることにしよう。

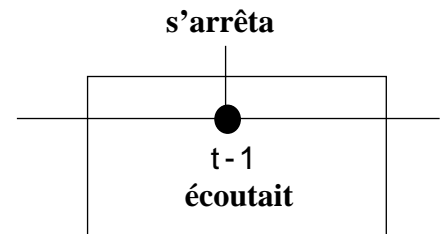
(4) Il s'arrêta brusquement : elle l'écoutait à peine.

「彼は不意に話すのをやめた。彼女はろくに聴いていないのだ」

(5) Le train siffla longuement ; on arrivait à la gare.

「列車は長々と警笛を鳴らした。駅に着いたのだった」

「説明の半過去」と呼ばれる用法である。(4)では「彼女がろくに聴いていない」ということが、「不意に話すのをやめた」ことの原因と取るのがふつうだろう。ただし、この例は上に示した定番の図式にぴったりは



まるので、あまり不思議に思う人はいるまい。「説明」の意味が出て来るのは、半過去の開く過去スペースが広い意味で「出来事の背景」を表わすためである。

(5)は少しびっくりする人がいるかもしれない。arriverのように一瞬で終わってしまう出来事が半過去に置かれているからである。しかしこれも同じ図式に基づくものである。ただし、(5)の訳は「駅に到着しようとしていた」ともできる。

(6) Elles pressèrent le pas : Henri les suivait sans dire un mot. (J.-P. Sartre, *Intimité*)

「彼女たちは足を速めた。アンリは何も言わずに二人の後について行く」

これはかなり高度な半過去のテクニックだ。「アンリがついて行く」という事態を出来事としてではなく過去スペースとして描いている。このスペースには視点が移されているので、読み手は彼女たちとアンリの道行きを、目の前で展開しているかのごとく目撃することになる。だから日本語訳は「ついて行く」と終止形にするのがよい。例(4)のelle l'écoutait à peineは、話を不意にやめた「彼」の視点からの発言なので、「Elle m'écoute à peine」という直接話法が地の文に埋め込まれた自由間接話法と取ることができる。しかし(6)の半過去は「彼女たち」や「アンリ」の視点ではなく、物語の展開を息を潜めて見ている姿なき観察者の視点を表わしている。こんな芸当ができるのは、半過去が「過去における現在」だからである。現在には必ず「現在」という時を生きる誰かが必要である。誰もいない現在というものはない。同じように半過去にも「過去における現在」を生きる誰かが必要であり、これが「視点」効果を生むもとになっている。

現在との対比を表わす半過去

半過去はすべて上の定番図式で説明することができるのだろうか。そうではない。これが半過去の面倒なところである。Son mari travaillait à la poste. 「彼女の夫は郵便局で働いていた」という文がもし Elle a rencontré Pierre chez une amie. 「彼女はピ

エールに友人宅で出会った」に続いて、「将来彼女の夫となる人はその当時郵便局で働いていた」という意味で使われていたら、定番図式に納まる。だがもし次のような使われ方をしていたら、別な用法となる。

(8) Son mari *travaillait* à la poste, mais maintenant il est informaticien.

「彼女の夫は郵便局で働いていたが、今ではIT技術者だ」

この半過去には「何かが起きた当時」という過去の時点 $t-1$ がなく、「以前はこうだが、今はこうだ」という現在との対比で用いられている。このタイプの半過去の Paul portait la barbe. 「ポールはあごひげを生やしていた」では、「今では生やしていない」という意味に取られることが多いという。これはなぜだろうか。次回までの宿題ということにしておこう。(とうごう・ゆうじ)